

令和元年度上期輸送実績の概況

令和元年度上期における内航輸送量の合計は、前年同期比では97.5%の1億8,798万7千トン/klとなり、貨物船は1億2,477万7千トンで98.5%となった。

五輪関連工事の剥落、米中貿易摩擦を背景とした世界経済の低迷や例年よりも長期間に及んだ大型連休による製造業の停滞が輸送面にも影を落とした。さらに連続した台風の襲来や長梅雨の影響で船舶の稼働率は下がり、とりわけ、激甚災害を引き起こした台風15号の影響も大きかった。消費税増税前の駆け込み輸送が品目によって現れた。

品目別に前年同期比で輸送量を見ると、鋼材が94.9%。都市部の再開発など建設向けの需要は引き続き高いが、人手不足による工事の進捗の遅れが見られている。秋に実施された製鉄所の修理により製品の先出し出荷で一部増加も見られたが、一方で需要の低迷から揚げ地倉庫の製品の在庫高による出荷の抑制があり減少となった。

原料は93.7%。石灰石はセメント販売の低下に伴う輸送量の減少が見られた。

燃料は99.1%。石炭は前年の夏期に石炭火力発電所の定期検査や入渠時期のずれ込みにより、繁忙期であるにも関わらず輸送が減少していたためその反動が見られた。コークスは原料向けが鉄鋼製品の生産の減少に伴いマイナスとなり、燃料全体では微減となった。

紙・パルプは104.6%。紙は電子媒体の進展による紙離れから、新聞用紙を中心に減少した反面、木材の輸送は好調な需要に支えられたため、紙・パルプ全体としては増加した。

雑貨は110.1%。4月に港湾ストがありRORO船の荷役ができない等の影響で配船の変更が見られた。梅雨明けが長引き、低温多雨に推移したため飲料関係は出足が鈍かった。一方で、連休の長さから駆け込みの輸送があった。また、新規の航路の開設（敦賀～博多）による送り込み、既存の九州航路ではインバウンドや輸出品の集荷が目立った。消費税増税前の駆け込み需要の輸送も若干であるが見られた。

自動車は104.2%。長い大型連休で自動車専用船の稼働は停滞気味であったが、大型化した自動車専用船が5月下旬より投入されたことに伴い輸送量は回復した。前年上期が台風に伴う船舶の避難や、西日本豪雨による鉄道・道路の寸断や断水で、自動車の生産や輸送にマイナスの側面が見られたが、本年上期は輸送障害による影響は比較的軽微であった。輸送は消費税増税前の駆け込み需要に支えられた。

セメントは94.3%。東京五輪需要の剥落、民間土木工事の人手不足による遅れ、大型連休によるセメント工場の操業休止もあり輸送は伸び悩んだ。一方で、北陸新幹線等の工事により日本海側への送り込みが顕著となった。

穀物・肥料・飼料は110.9%、機械・プラントは89.8%、砂・砂利・石材は84.3%となった。

上期の油送船の輸送量は6,321万トン/klで95.6%となった。黒油が85.5%、白油が99.1%、油脂が101.4%、ケミカルが98.1%。特タン船が97.2%となった。

黒油は電力需要の落ち込みは止まることがなく、猛暑による石油火力発電所向け需要が期待されたが、他電源による電力の供給により需要は低調となった。

9 月には関東、甲信越、東北などを強い勢力で被害をもたらした台風 15 号、月後半に発生した台風 17 号などで船の避難が相次いだ。

白油は大型連休が例年よりも長い連休となり、ガソリンの販売も前半は好調であったが、後半はその反動で伸び悩みが見られた。大型連休中の交通量は前年比で二桁増となったが、ハイブリッド車保有台数増加や自動車の燃費向上等が需要の減少に大きく影響している。長梅雨もあってガソリンの販売量は落ち込んだ。

灯油についても、5 月の北海道では気温が 40 度近くの猛暑日が続くなどの異常気象に見舞われ、北日本を中心に灯油の需要は減少した。これまで好調であった航空燃料の需要にも一部低調が見られた。9 月に入り、ガソリン、航空燃料、灯油等は消費税増税前の月であったこともあり販売は底堅かったが、輸送面へのプラスの影響は期待外れとなった。長期予報では暖冬が見込まれたこともあり、冬季需要を見越した灯油の積み増し輸送は前年よりも出遅れた。

ケミカルはエチレンプラントの稼働率は高水準に推移しており、国内出荷は振るわないが輸出向けが増加していた。国内需要は減少傾向にあり、製油所間転送やキシレンの需要も減少し、輸送量は減少した。さらに、8 月に入り工場設備の長期休暇の影響のほか、猛暑日が多かったことからエチレン設備をフル稼働できなかったことが出荷停滞の原因となり船舶の稼働率を押し下げた。

特タン船は LPG が製油所の不具合、硫酸は輸出向けの落ち込み、苛性ソーダも前年度まで続いた需要の盛り上がりには及ばなかった。

[参考]	関連業界の動向					
	(各荷主協会・関係省庁資料による)					
	平成30年度			令和元年度	増減率	
	上期	下期	年度計	上期	前年同期比	前期比
鉄 鋼	(千t)			(千t)	(%)	(%)
粗鋼生産量	52,219	50,670	102,888	50,663	97.0%	100.0%
粗鋼見掛消費	35,889	36,507	72,396	34,914	97.3%	95.6%
石 灰 石	(千t)			(千t)	(%)	(%)
生産量	70,369	72,361	142,730	68,291	97.0%	94.4%
国内出荷	67,549	70,188	137,737	65,784	97.4%	93.7%
製 紙	(千t)			(千t)	(%)	(%)
紙・板紙国内出荷	12,039	12,381	24,420	11,792	97.9%	95.2%
新聞用紙出荷	1,275	1,270	2,545	1,186	93.0%	93.4%
自 動 車	(千台)			(千台)	(%)	(%)
国内生産台数	4,631	5,118	9,749	4,821	104.1%	94.2%
国内販売台数	2,483	2,777	5,260	2,621	105.6%	94.4%
セメント	(千t)			(千t)	(%)	(%)
国内生産	29,556	30,674	60,230	28,229	95.5%	92.0%
国内販売	20,704	21,795	42,499	20,352	98.3%	93.4%
石 油 製 品	(千kl)			(千kl)	(%)	(%)
燃料油内需要	78,306	89,559	167,866	82,708	105.6%	92.3%

*粗鋼見掛消費量は、国内出荷量をさす。「生産」+「輸入」-「輸出」

2019(令和元年) 年度【上期】 輸送実績 (1号票集計結果表)

(単位：千トン、千kl (一般タンカー))

大分類	品目	2017(平成29)年度		2018(平成30)年度		2019(平成31)年度	前年度 上期比 (%)	前々年度 上期比 (%)
		上期 (A)	下期	上期 (B)	下期	上期 (C)		
鋼材	鋼材 (一般鋼材)	24,183	24,389	24,501	26,516	23,261	94.9%	96.2%
	鋼材 (容積材)	161	168	149	154	127	85.2%	78.9%
	計	24,344	24,557	24,650	26,670	23,388	94.9%	96.1%
原料	石灰石	18,498	19,220	18,869	19,648	17,964	95.2%	97.1%
	非金属鉱	1,359	1,556	1,489	1,428	1,225	82.3%	90.1%
	金属鉱	1,569	459	298	262	271	90.9%	17.3%
	スラグ	3,244	3,313	3,130	3,405	3,254	104.0%	100.3%
	その他原材料	7,588	7,629	7,183	7,200	6,307	87.8%	83.1%
	計	32,258	32,177	30,969	31,943	29,021	93.7%	90.0%
燃料	石炭	6,108	6,194	5,265	6,054	5,380	102.2%	88.1%
	コークス	2,504	2,639	2,320	2,523	2,139	92.2%	85.4%
	計	8,612	8,833	7,585	8,577	7,519	99.1%	87.3%
穀物 ・肥料 ・飼料	穀物・飼料	2,478	2,486	2,451	2,624	2,667	108.8%	107.6%
	肥料	416	492	286	342	370	129.4%	88.9%
	りん鉱石	6	6	5	5	5		
	計	2,900	2,984	2,742	2,971	3,042	110.9%	104.9%
機械・プラント		274	281	283	263	254	89.8%	92.7%
紙・パルプ	木材	740	654	573	660	707	123.4%	95.5%
	紙	1,213	1,213	1,093	1,206	1,034	94.6%	85.2%
	パルプ	72	53	41	49	44	107.3%	61.1%
	計	2,025	1,920	1,707	1,915	1,785	104.6%	88.1%
雑貨	一般雑貨	7,437	7,952	7,661	8,787	9,019	117.7%	121.3%
	油脂類	1	2	2	3	2		
	コンテナ	4,779	4,654	4,929	4,827	5,033	102.1%	105.3%
	塩	705	714	646	662	589	91.2%	83.5%
	アルミナ	43	30	32	35	37	115.6%	86.0%
	非鉄金属	468	453	402	403	370	92.0%	79.1%
	計	13,433	13,805	13,672	14,717	15,050	110.1%	112.0%
自動車		24,972	26,159	24,826	27,578	25,863	104.2%	103.6%
セメント		17,759	18,099	17,899	18,579	16,886	94.3%	95.1%
砂・砂利・石材		2,211	2,399	2,336	2,522	1,969	84.3%	89.1%
貨物船 合計		128,788	131,214	126,669	135,735	124,777	98.5%	96.9%
一般 タンカー	黒油	15,688	17,993	15,320	14,770	13,096	85.5%	83.5%
	白油	36,314	38,390	35,481	37,600	35,151	99.1%	96.8%
	油脂	494	490	490	504	497	101.4%	100.6%
	ケミカル	6,533	6,841	6,742	6,891	6,614	98.1%	101.2%
	計	59,029	63,714	58,033	59,765	55,358	95.4%	93.8%
特タン船		8,229	8,698	8,078	8,810	7,852	97.2%	95.4%
油送船 合計		67,258	72,412	66,111	68,575	63,210	95.6%	94.0%
総合計 (貨物船+油送船)		196,046	203,626	192,780	204,310	187,987	97.5%	95.9%

注) 末尾数値は四捨五入のため、合計欄と合致しないことがある

前回発表後に対象事業者からの報告による輸送量の修正を行っているため、前回発表時と異なる箇所がある。

内航輸送実績推移(上・下期別)

単位 貨物船:百万トン、一般タンカー:百万kl

